

第2回協議会資料

現況調査・分析手法

2021年8月31日
名護市

目次

1. 上位・関連計画整理の対象
2. 現況整理の対象
3. ニーズ調査の実施方法
4. 実証実験における調査実施方法

1. 上位・関連計画整理の対象

✓ 公共交通計画策定において関係する上位・関連計画について整理。

＜整理対象とする上位・関連計画＞

策定主体	種類	計画名	計画年次 (期間)	概要	公共交通計画に反映する点
沖縄県	基本構 想	沖縄21世紀ビジョン (平成22年3月策定)	令和12年度	沖縄県が目指すべき姿 (想定年:令和12年度)	将来像における名護市の位 置づけ、実施計画の基本施 策
沖縄県	基本計 画	沖縄県総合交通体系基本計画 (平成24年6月策定)	平成24～ 令和13年度	沖縄21世紀ビジョン基本計画を上 位計画とした交通分野に関する基 本政策の具体的な構想	
名護市	総合計 画	第5次名護市総合計画 (令和2年3月策定)	令和2～ 令和11年度	名護市のまちづくりに関する 総合的な計画	名護市の最上位計画の施策 方針
名護市	総合計 画	名護市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン総 合戦略(平成28年3月策定)	平成27～ 令和2年度	総合計画を受けて、名護市が目指 すべき将来の方向と人口の展望	基本方針、施策、指標・目 標
沖縄県	まちづ り	名護都市計画「都市計画区域の整備、開 発及び保全の方針」(平成29年6月策 定)	令和12年度	名護都市計画区域の都市の将来 像、都市づくりの理念、都市構造 等	北部の拠点としての位置付け
名護市	まちづ り	名護市都市計画マスタープラン (平成18年8月策定)※改定中	改定中	総合計画、整開保に即して作成さ れるまちづくりの基本方針	地域の考え方、拠点の考え 方、具体的な施策、指標・目 標
名護市	地域構 想	名護湾沿岸基本構想(令和2年3月策 定)・基本計画(令和3年3月策定)	長期計画	名護湾沿岸の将来像、空間のあり 方	名護湾沿岸のゾーニング
名護市	観光計 画	第2次名護市観光振興基本計画 (令和2年3月策定)	令和2～ 令和6年度	名護市における観光振興の基本 計画	北部玄関口の概念等
名護市	福祉計 画	名護市第4次地域保健福祉計画 (平成30年3月策定)	平成30～ 令和4年度	福祉計画の基本計画	施策等への対応 (福祉タクシー等)
名護市	環境計 画	名護市地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)(平成29年3月策定)	平成29～ 令和8年度	名護市における環境計画 (二酸化炭素を削減)	指標・目標等(自家用車 利用からの利用転換目標)
北部広域 市町村圏 事務組合	交通計 画	北部地域交通体系基本計画 (平成26年3月策定)	令和12年度	沖縄県北部地域の総合的な地域 交通計画	北部地域における名護市の 役割・位置づけ、施策

1. 上位・関連計画整理の対象

✓ 公共交通計画策定において関連する事業について整理。

＜その他事業＞

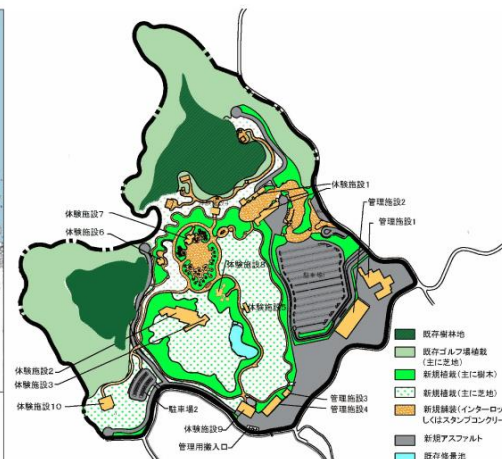
事業者	取り組み	内容	備考
内閣府沖縄総合事務局	一般国道58号 名護東道路	北部地域の活性化を支援するとともに、名護市街地の渋滞緩和を図ることを目的に事業を実施	令和3年7月31日に世富慶IC（インターチェンジ）－数久田IC区間（2・6キロ）が開通し、延長6.8km全体が供用
株式会社ジャパンエンターテインメント	沖縄北部テーマパーク事業	嵐山ゴルフ倶楽部を改修し、亜熱帯沖縄の魅力ある自然環境を体感するテーマパークを再整備	今帰仁村呉我山地内（約56ヘクタール）
ユネスコ	沖縄島北部 世界自然遺産登録	沖縄本島北部には極めて貴重で多様な生物が生息・生育しており「国際的にも希少な固有種に代表される生物保全上重要な地域である」と高く評価され、世界自然遺産に登録	2021年7月26日に国連教育科学文化機関（ユネスコ）世界遺産委員会が正式登録の決定を発表

■ 名護東道路



出典：内閣府沖縄総合事務局HP
<http://www.ogb.go.jp/kaiken/3434/11917/011623/011474>

■ 沖縄北部テーマパーク事業



出典：沖縄県HP
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyoseisaku/hyoka/shinsakai/documents/siryoku.pdf>

2. 現況整理の対象

- ✓ 計画策定において必要となる現況を把握するため、各種統計を収集・整理。
- ✓ 人口については、地区別の将来人口推計を実施し、地区別の将来人口変化の傾向を把握。

<主な現況整理項目（人口・土地利用等）>

分類	調査項目	分析期間・出典
人口	人口推移(現況、将来)	国勢調査平成2・7・12・17・22・27年、住民基本台帳平成28年～令和2年、人口問題研究所による予測値
	人口分布(現況)	令和2年10月1時点 (推移確認のため、データは平成28年～令和2年を想定)
	人口分布(将来)	過去の各地域の人口の変化率を踏まえて、人口問題研究所による将来予測値をコントロールとしたコーホート変化率法により推計
	従業員数(現況)の分布	平成28年経済センサス活動調査
土地・施設	各施設の立地状況	調査時点
	将来の開発動向	調査時点で公開されている範囲
	事業所数の分布	平成28年経済センサス活動調査
	土地利用状況	平成28年度・29年度沖縄県都市計画基礎調査
観光	観光施設の立地	調査時点 (ベースは令和2年の実態調査)
	観光入込客数の推移	平成23年～令和2年
	観光客の移動手段	令和元年度観光統計実態調査
移動特性	移動目的別・交通手段別の移動傾向	平成25年度北部パーソントリップ調査
	高校生の通学実態	高校生通学実態調査（沖縄県教育庁）

2. 現況整理の対象

- ✓ 公共交通については、路線バス、タクシーのみならず、スクールバス、病院送迎バスについても整理。

<主な現況整理項目（公共交通）>

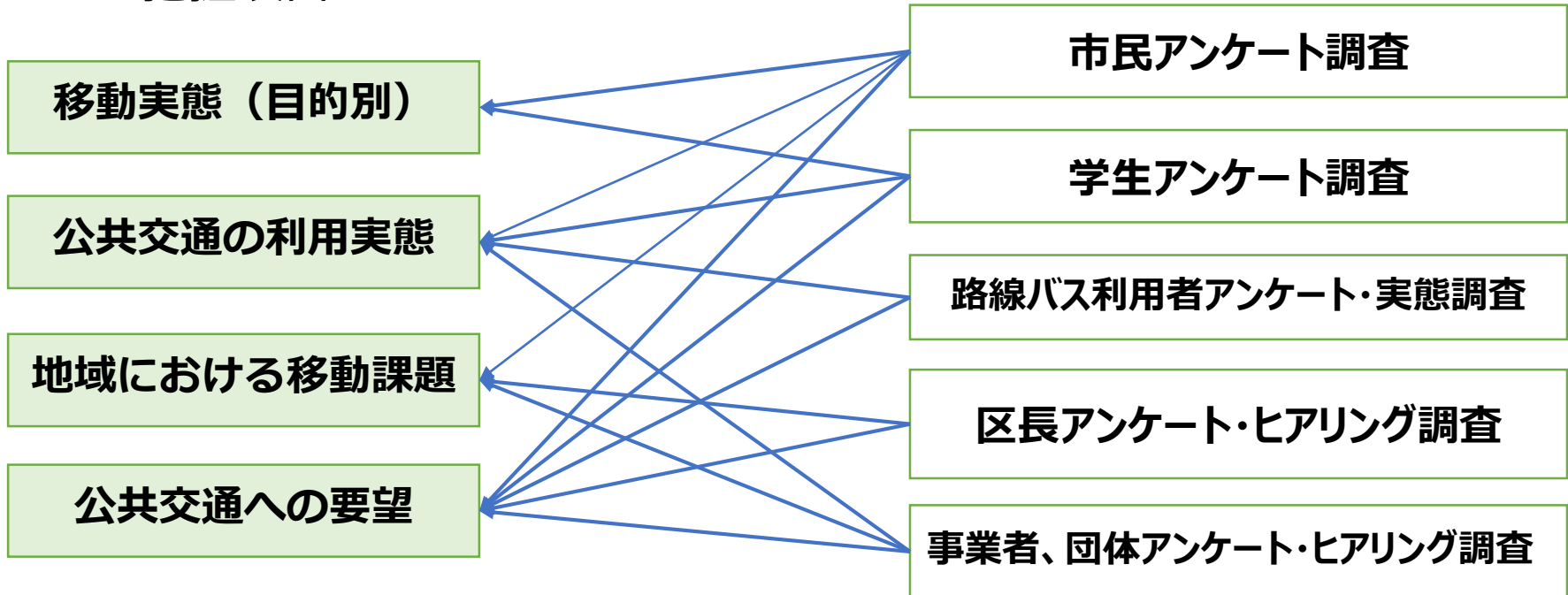
分類	調査項目	分析期間
交通概況	道路の交通量（混雑度）	平成27年度道路交通センサス
	乗用車保有数の推移	平成28年度～令和2年度
路線バス	運行状況	調査時点
	利用状況	過去5年間程度 及び平成25年度路線バス乗降調査
	補助の状況	過去5年間程度
・スクールバス ・学生送迎バス （名桜大学） ・病院送迎バス	運行状況	調査時点
	利用状況	公開されている情報及びヒアリング等での提供依頼 を通して可能な限り調査
タクシー	運行状況	調査時点
	利用状況	過去5年間程度
公共交通空白地域	カバーエリア（面積）	調査時点
	人口カバー率	調査時点 ※人口のデータは平成27年国勢調査の人口メッシュを用いて実施

3. ニーズ調査の実施方法

- ✓ 公共交通ニーズ等の把握に必要なターゲット毎の調査を実施。

＜把握項目＞

＜調査内容＞



把握項目	調査内容
移動実態（目的別）	✓ 名護市民の移動実態を、国勢調査等の統計データに加え、より具体的に把握するため、 市民アンケート により移動目的（通勤通学・買い物等）毎に、交通手段等を調査
公共交通の利用実態	✓ 公共交通の現況整理として アンケートにより、路線バスやタクシー等の利用実態 を調査
地域における移動課題	✓ 名護市の交通の在り方を検討する上で、 市民アンケート に加えて、より具体的な地域の移動に関する課題を把握するため 区長へのアンケート を実施
公共交通への要望	✓ 施策検討に活用するため、市民目線の調査と 施設へのアンケート・ヒアリング調査 を組み合わせる施策に対するニーズを調査

3. ニーズ調査の実施方法

✓ 各ニーズ調査の想定実施時期及び内容は以下のとおり。

項目	実施時期 (案)	内容
①路線バス利用者アンケート・実態調査	9月上旬	【対象】主な停留所の利用者 【方法】はがきアンケートの配布 【概要】路線バスの主要バス停留所を利用している人に対して、利用実態や課題を把握するためアンケート調査を実施（平日・休日計300票を目標）。乗降客数も調査
②事業者、団体アンケート・ヒアリング調査	アンケート 9月中旬 ヒアリング 9月下旬 ～	【対象】需要：公共交通の目的地と考えられる施設（学校、医療、商業、観光等） 公共交通の必要性が特に高いと考えられる、高齢者関連団体、障がい者団体 供給：交通事業者、国道事務所等の道路関連 【方法】アンケート・ヒアリング 【概要】施設側等の民間事業者、利用者や行政などの視点での公共交通に対するニーズ等をアンケート・ヒアリング調査を実施
③学生アンケート調査	9月下旬	【対象】名護市内の高校・高専・大学の学生 【方法】Q Rコード配布によるW E B アンケート 【概要】主に通学等の移動に対するニーズを把握するためアンケート調査を実施
④市民アンケート調査	10月	【対象】名護市内全地域の18歳以上に配布【方法】地域別、年齢階層別に無作為抽出した対象者に郵送配布（票数7,000件、回収30%の約2,000件を想定） ※回答しやすいようにWEBでの回答も可能とする 【概要】名護市における公共交通の利用状況や課題・要望を把握するためアンケート調査を実施
⑤区長アンケート・ヒアリング調査	10月	【対象】名護市内全区長（55区） 【方法】アンケート 【概要】各地域における具体的な公共交通の課題を把握するため、区長へのアンケート調査を実施。また交通空白地域の区長にはヒアリング調査も併せて実施を想定

3. ニーズ調査の実施方法

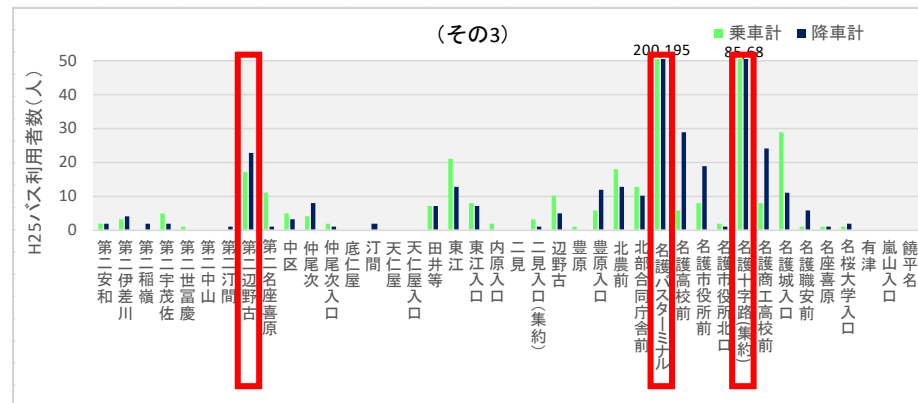
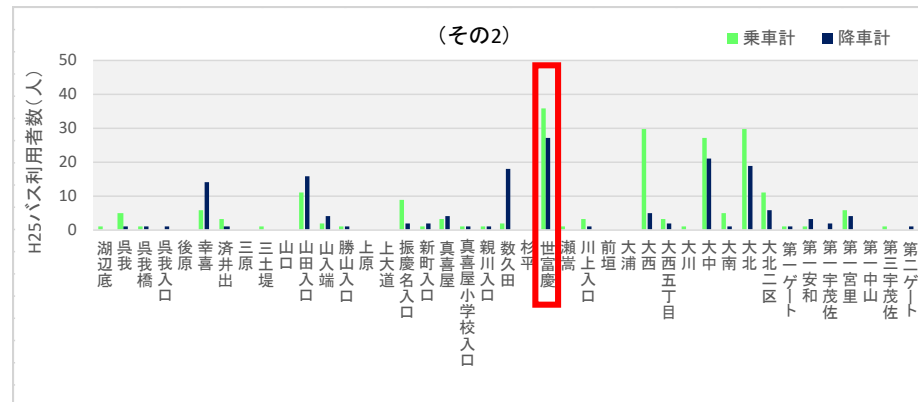
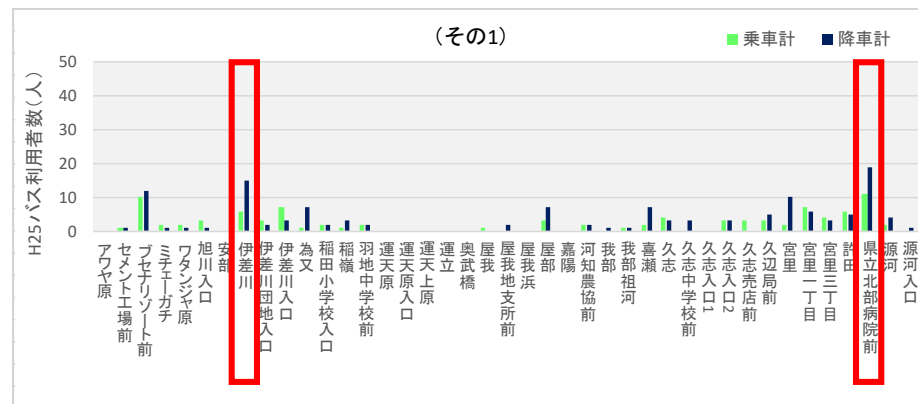
① 路線バス利用者アンケート

・実態調査

- ✓ 名護市内の主要バス停（6か所）にて、乗降客に対し、アンケートを配布、郵送回収により、路線バス利用者の実態、ニーズを把握
- ✓ 平日・休日で300票※の回収を目標。
- ✓ 調査実施予定：令和3年9月上旬

※H25県調査の結果から、6か所合計の乗降客数は700人程度。往復利用を想定すると、実人数は350人、協力率・回収率50%程度を想定すると、平日200票程度回収、休日は平日の半分程度を想定すると、300票確保が可能と推察される。200票以上あればカテゴリー区分の設定の工夫により統計的な精度は確保できる。

	H25沖縄県調査での1日の乗降客数
名護バスターミナル	約400
名護十字路	約150
世富慶	約60
沖縄高専入口 (旧：第二辺野古)	約40
県立北部病院前	約30
伊差川	約20
計	約700



3. ニーズ調査の実施方法

①路線バス利用者アンケート・実態調査

<設問項目と活用方法>

設問分類	設問項目	活用方法
1.個人属性	①性別、②年齢、③住所④職業、⑤運転免許の有無、⑥自家用車の有無、⑦自宅から最寄りバス停までの時間・距離	✓ 年齢、地域の違いによる移動実態の違い、交通手段の違いを把握
2.路線バスについて	2-1路線バス全体の満足度	✓ 路線バス利用者の満足度を把握し、目標等への活用を検討
	2-2路線バスの利用頻度	✓ 路線バス利用者の利用実態を把握
	2-3利用する（した）路線バスの利用実態	✓ 路線バス利用者の利用実態を把握
	2-4①バスサービスの重要度	✓ 路線バス利用者のサービスの重要度を把握
	2-4②具体的な改善点	✓ 改善点を把握し、施策等に反映
	2-5利用する（した）路線バス以外の利用実態（頻度が高いもの）	✓ 路線バス利用者の利用実態を把握
	2-6路線バスで行きたい場所	✓ 施策検討の参考として訪問ニーズのある場所を把握
	2-7路線バスへの要望	✓ 公共交通に対する自由意見を把握し、ニーズ把握の参考意見として活用

3. ニーズ調査の実施方法

①路線バス利用者アンケート・実態調査 (参考) アンケート票

✓ 大判ハガキを
活用

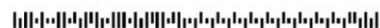


料金受取人私郵便
差出有効期間
令和X年
X月XX日まで
(切手不要)

(受取人)
東京都千代田区神田錦町 3-22

パシフィックコンサルタンツ株式会社
社会イノベーション事業本部

「名護市内における路線バスに関する
利用者アンケート調査」係 行



名護市内における路線バスに関する利用者アンケート調査

① あなたご自身のことについて教えてください。

① 性別 1. 男性 ② 年齢 1. 10代 4. 40代 7. 65-69歳
2. 女性 2. 20代 5. 50代 8. 70代
3. 30代 6. 60-64歳 9. 80歳以上

③ お住まいの場所

1. 名護市内(大字:) 2. 名護市外(市町村:)

④ 職業

1. 学生 5. 専業主婦・主夫
2. 会社員・公務員 6. 無職
3. アルバイト・パート 7. その他()
4. 自営業

⑤ 運転免許の有無

自動車免許	二輪・原付免許
1. 持っている	1. 持っている
2. 以前は持っていたが現在は持っていない	2. 以前は持っていたが現在は持っていない
3. 一度も持ったことはない	3. 一度も持ったことはない

⑥ 自家用車の有無

1. 自分専用の車がある
2. 家族共用の車があり、自分も運転している
3. 車は無い、または、あっても自分は運転しない

⑦ 自宅から最寄りバス停までの時間・距離(どちらがわかる方のみでも可)

時間	距離
()分	1. 100m 2. 200m 3. 300m
	4. 500m 5. 1km 6. 1km以上
	7. わからない

⑧ 名護市内の路線バスについて

2-1 路線バス全体の満足についてお聞きします。

1. 満足している 4. やや不満
2. やや満足している 5. 不満
3. どちらともいえない

調査主体: 名護市 名護市役所 企画部 企画政策課

2-2 普段どの程度、路線バスを利用していますか。

1. 週に5日程度 4. 月に2・3日程度
2. 週に3~4日 5. 月に1日程度
3. 週に1・2日 6. ほとんど利用しない

2-3 現在利用されている路線バスについてお聞きします。

ルート	系統【 】番 または 終点【 】行き
乗車バス停	() 第 便 AM・PM : (頃)
降車バス停	()
他路線バスとの乗り継ぎ	1. 乗車の前 2. 乗車の後 3. 乗り継ぎしていない → (バス停名:)
利用目的	1. 通勤・通学 6. 公共施設への来訪 2. 買い物(日常) 7. 観光 3. 買い物(非日常) 8. 乗ってみたかったから 4. 医療施設への通院 9. その他 5. 業務中の移動 ()

2-4 現在利用されている路線バスについてお聞きします。

① 路線バスがより多くの方に利用されるために重要と考えられる項目について、以下の1~9の中から3つまでご記入ください。

選択肢	回答
1. 運行間隔(運行頻度)	最も重要と考えられる項目 ()
2. ダイヤ設定(ダイヤのわかりやすさ)	
3. 運行時間(始発便と最終便)	2番目に重要と考えられる項目 ()
4. 定時性(ダイヤに正確な運行)	
5. 目的地までの所要時間(乗車時間)	3番目に重要と考えられる項目 ()
6. 運行ルート(ルート、バス停の位置)	
7. バス停環境(時刻表・案内板の見やすさ等)	
8. 車両環境(乗り心地・車両デザイン等)	
9. 運行全般について(総合的に評価した場合)	

② 上記で選んだ項目について、具体的な改善点などがあればご記入ください。

2-5 現在利用されている路線バス以外で定期的に利用している路線バスがあれば教えてください(最も利用頻度が高いもの)。

ルート	系統【 】番 または 終点【 】行き
乗車バス停	() 第 便 AM・PM : (頃)
降車バス停	()
路線バスとの乗り継ぎ	1. 乗車の前 2. 乗車の後 3. 乗り継ぎしていない → (バス停名:)
利用目的	1. 通勤・通学 6. 公共施設への来訪 2. 買い物(日常) 7. 観光 3. 買い物(非日常) 8. 乗ってみたかったから 4. 医療施設への通院 9. その他 5. 業務中の移動 ()

2-6 路線バスで移動したい場所があれば具体的に教えてください。

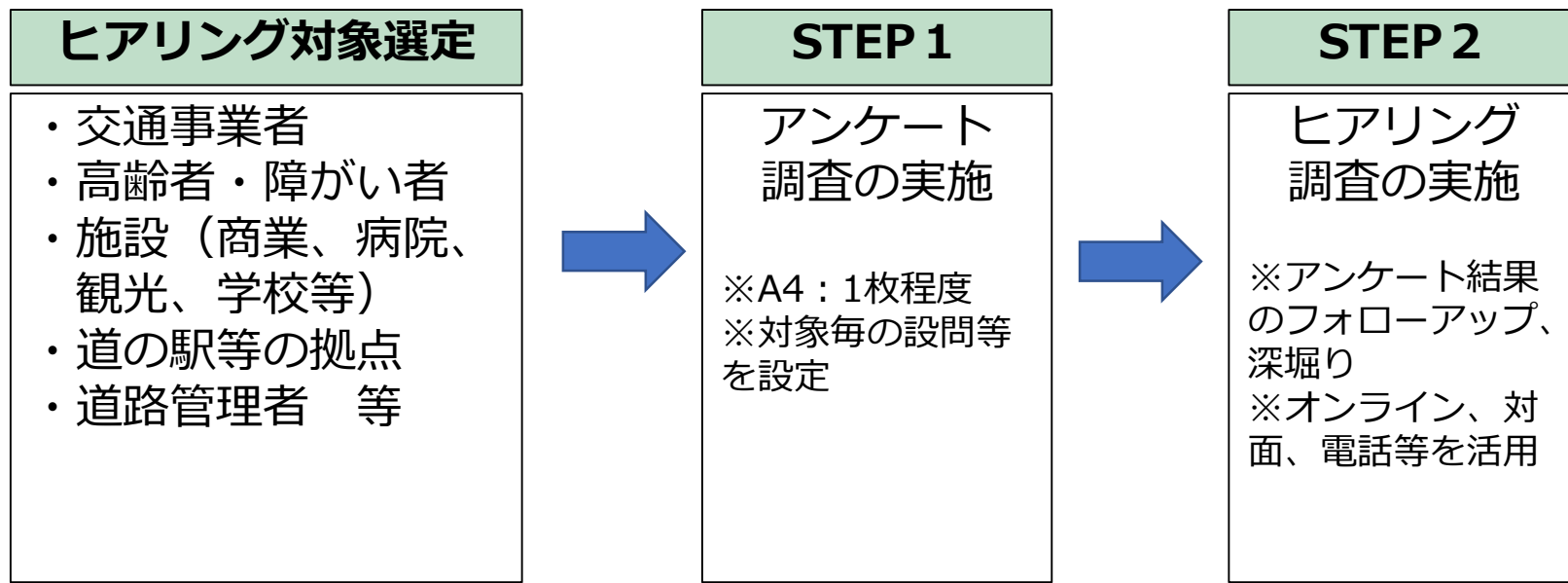
2-7 その他路線バスに関してご要望等があれば教えてください。

3. ニーズ調査の実施方法

②事業者、団体アンケート・ヒアリング調査

- ✓ 施設運営者等事業者の視点、行政の視点から名護市における公共交通ニーズを把握する。
- ✓ 公共交通を運行する上で関連がある事業者・団体を選定。効率的に情報収集を行うため、郵送orメール等を活用した**アンケート調査を実施の上、ヒアリング調査により詳細を把握する2段階調査を想定**する。

<調査の実施手順>



3. ニーズ調査の実施方法

②事業者、団体アンケート・ヒアリング調査

＜対象と把握内容＞

対象		アンケート・ヒアリング把握内容
交通事業者	バス	✓ 利用実態（一般、学生、高齢者）、現状の課題、公共交通再編のあり方・ニーズ
	タクシー	✓ 利用実態（高齢者等）、現状の課題、公共交通再編のあり方、ニーズ
	高速船	✓ 高速船の運航実績、名護漁港での就航の計画、名護漁港における公共交通サービスのあり方・ニーズ（二次交通）
高齢者		✓ 高齢者、障がい者の現状の公共交通の利用実態、現状の課題、新規運行・サービス向上ニーズ等公共交通（路線バス・タクシー、デマンド交通等）のあり方
障がい者団体		
施設	商業	✓ 現状のアクセス方法（交通手段分担）・実績、公共交通運行・サービス向上に対するニーズ ✓ （送迎バス・スクールバス等の運行がある場合）利用実績、既存の公共交通との再編ニーズ
	病院	
	観光	
	学校	
	その他	
拠点	交通拠点	✓ 現状のアクセス方法（交通手段分担）・実績、公共交通運行・サービス向上に対するニーズ
	名護湾	✓ 将来のビジョン、機能とスケジュール、現状のアクセス方法（交通手段分担）・実績、公共交通運行・サービス向上に対するニーズ
その他	道路管理	✓ 公共交通運行のあり方、道路管理者側からのニーズ

3. ニーズ調査の実施方法

②事業者、団体アンケート・ヒアリング調査

＜ヒアリング対象案＞ ※ヒアリング候補は現時点の想定であり、今後変更になる可能性がある

対象		アンケート・ヒアリング候補
交通事業者	バス	琉球バス交通、沖縄バス、北部観光バス、やんばる急行バス
	タクシー	丸金交通、北部観光タクシー、名護タクシー
	高速船	第一マリンサービス
高齢者		名護市介護長寿課、名護市老人クラブ連合会
障がい者団体		名護市社会福祉協議会、NPO名護市障がい者関係団体協議会、名護市社会福祉課
施設	商業	商業施設（イオン名護、はい菜！やんばる市場、タウンプラザかねひでなんぐすく桜市場、サンエー伊差川、なごアグリパーク、ザ・フォレストモール名護、MEGAドン・キホーテ名護店）、名護市地域経済部商工・企業誘致課、名護市商工会、名護青年会議所
	病院	北部病院、北部地区医師会病院、勝山病院、久志診療所、屋我地診療所、沖縄県保健医療部医療政策課、国立療養所沖縄愛楽園、名護療育医療センター（五和会）、赤嶺内科、名護市健康増進課
	観光	名護市観光協会、名護市観光課、観光施設・宿泊施設（轟の滝、オリオンハッピーパーク、ネオパークおきなわ、パynaッブルパーク、OKINAWAフルーツランド、森のガラス館、ザ・プセナテラス、カヌチャリゾート、沖縄北部テーマパーク事業者）
	学校	名桜大学、沖縄工業高等専門学校、名護高校、名護商工高校、北部農林高校、名護市教育委員会学校教育課、屋我地支所・久志支所
	その他	金融機関等
拠点	交通拠点	道の駅許田、羽地の駅、わんさか大浦パーク
	名護湾	名護漁業協同組合、名護市振興対策室
その他	道路管理	北部国道事務所、沖縄県土木建築部北部土木事務所、名護市都市計画課、名護市建設土木課

③学生アンケート調査

- ## ＜アンケート対象案＞

＜主なアンケート把握内容＞

（名桜大学のみ） 学生送迎バスの利用状況

13

3. ニーズ調査の実施方法

④市民アンケート調査

- ✓ 名護市民に対し、公共交通利用実態・ニーズ把握に活用するため調査を実施。（アンケート票は別添）
- ✓ 現況把握、ニーズ把握、施策検討等の参考となるように設問を設定。平成29年度に実施した、名護市地域公共交通基礎調査における市民アンケートでの項目も参考に設定。

<設問項目と活用方法 1 / 3 >

設問	設問項目	活用方法
1.個人属性	①性別、②年齢、③住所、④職業	✓ 年齢、地域の違いによる移動実態の違い、 交通手段の違いを把握 ✓ 職業はクロス集計時に必要に応じて活用
	⑤最寄りバス停までの距離	✓ 最寄りバス停の距離に応じてバス利用実態等 の違いを把握
	⑥運転免許の保有（自動車免許、二輪・原付免許）	✓ 免許保有の有無により公共交通の利用状況の 違いや施策に対するニーズを把握
	⑦自由に使える自動車/自動二輪等	✓ 自由に使える自動車等の有無により公共交通 の利用状況の違いを把握
	⑧家族による送迎状況	✓ 家族による送迎環境の有無の違いによる公共 交通の利用状況の違いを把握
	⑨歩行器具使用状況 ⑩内容	✓ ノンステップバスやバス待ち環境の改善などの 施策検討に活用

3. ニーズ調査の実施方法

④市民アンケート調査

<設問項目と活用方法 2 / 3 >

設問	設問項目		活用方法
2.移動実態	①外出頻度、②自動車利用の有無、③主な外出の内容		✓ 平日・休日ごとにそれぞれ主な利用の実態を把握し、現況把握における移動実態整理として活用
3.バス交通	①路線バスの認知度		✓ 路線の認知度を把握し、問題点・課題把握に活用
	②利用頻度		✓ 主な目的・利用する停留所・時間帯を把握し、路線バスの利用実態を把握
	路線バス利用者	③利用目的	
		④利用バス停	
		⑤利用時間帯	
		⑥運行サービスの重要度	✓ 現況把握の一環として公共交通サービスの重要度・ニーズを確認
		⑦バスの乗り継ぎ実態	✓ 現状の乗り継ぎ実態を把握
		⑧乗り継ぎの際の重要度	✓ ⑦とあわせて、乗り継ぎ施策検討の参考として乗り継ぎに対する意識を把握
	路線バス非利用者	⑨利用しない理由	✓ 路線バスの現状における課題の把握 ✓ 施策検討の参考として利用しない理由を把握
		⑩利用するための重要な事項（⑪自由意見）	✓ 路線再編時やコミュニティバスの施策検討の際の、サービスレベル等の参考として活用
	共通	⑫路線バスで行きたい場所	✓ 施策検討の参考として訪問ニーズのある場所を把握

3. ニーズ調査の実施方法

④市民アンケート調査

<設問項目と活用方法 3 / 3 >

設問分類	設問項目	活用方法
4.タクシー交通	①利用頻度	✓ 主な目的・利用する方面・時間帯を把握し、タクシーの利用実態を把握 ✓ タクシーの需要喚起の施策検討時等に活用
	②利用目的	
	③タクシーで行く場所	
	④利用時間帯	
	⑤利用した理由	
5.新たな交通施策について	①1) コミュニティバスのニーズ	✓ 施策検討の参考として活用
	①2) デマンド交通ニーズ	✓ 施策検討の参考として活用
	③交通施策全般ニーズ	✓ 施策検討の参考として活用。優先度を整理することにより、施策実施スケジュール（短期・中長期）の検討材料として活用
6.その他	自由意見	✓ 公共交通に対する自由意見を把握し、ニーズ把握の参考意見として活用

3. ニーズ調査の実施方法

⑤区長アンケート・ヒアリング調査

- ✓ 名護市55区の区長に対し、地域の代表の立場として、地域ごとの交通状況（住民の方が利用する施設、施設への移動手段）、公共交通が不便な場所の有無、その理由、利用促進策、公共交通の問題点・改善要望等を把握。
- ✓ 実施時期：令和3年10月（各支局の区長会において調査の趣旨説明、アンケートを配布し、郵送回収を想定。また交通空白地域の区長にはヒアリング調査も併せて実施。）

<設問項目と活用方法>

設問分類	設問項目	活用方法
交通状況	住民の方がよく利用する施設（行政施設、医療・福祉施設、商業施設、学校、文化・スポーツ施設、その他公共施設、その他）	地区ごとの移動実態の把握
公共交通の課題	上記移動の際に公共交通が不便な地域の有無と、理由	地域における具体的な公共交通の課題を把握
利用促進策	上記移動において公共交通利用促進策	地域における具体的な公共交通施策ニーズを把握
自由意見	公共交通の問題点・改善要望	公共交通の問題点・改善点を把握

4. 実証実験における調査実施方法

- ✓ **名護市地域公共交通計画に位置付ける施策を検討**するため、
名護市街地及び周辺エリアコミュニティバス及び、久志地域公共交通実証実験を実施。

実証内容		内容
名護市街地及び周辺エリアコミュニティバス実証実験 (資料 6 にて詳細)	循環線 東西線 南北線	✓ 市街地の利便性向上を図るため、令和 2 年の実証実験を受けて、3 ルートにおけるコミュニティバス運行 →市街地及び周辺エリアの公共交通のあり方を検討、計画に反映
	コミュニティバス（二見以北）	✓ 二見以北から市街地間のコミュニティバス運行 →名護市周辺部から市街地間の公共交通交通のあり方を検討、計画に反映
久志地域公共交通実証実験 (資料 7 にて詳細)	デマンド交通 (久辺三区)	✓ 久辺三区エリア内を基本としたデマンドタクシーの運行 →名護市におけるデマンド交通のあり方検討、計画に反映

4. 実証実験における調査実施方法

4.1 名護市街地及び周辺エリアコミュニティバス

4.1.1 実証実験の目的

✓ 実証実験の目的は以下のとおり。

1. コミュニティバス運行による地域住民の移動手段としての効果、既存の公共交通への影響及び運行内容のニーズへの適合性を確認し、**本格導入検討時の際の検討材料**とする。
2. 本年度策定予定の**名護市地域公共交通計画における方針、施策検討**に反映。



✓ 目的に資するため、以下の項目を把握。

- 想定した利用に対する利用状況の把握
 - ・地域住民の日常的な利用や観光施設等を周遊する移動手段としての利用
- 路線バス・タクシーへの影響
 - ・コミュニティバス運行時の路線バス及びタクシー利用者数の変化、乗り継ぎ利用の有無等
- 運行内容のニーズへの適合
 - ・ルート、ダイヤ、バス車両 等
- 想定利用者数
 - ・アンケート等をもとにした本格運行時の利用者数の想定

20

4. 実証実験における調査実施方法

■ 東西線

ルートと沿線の主要な施設

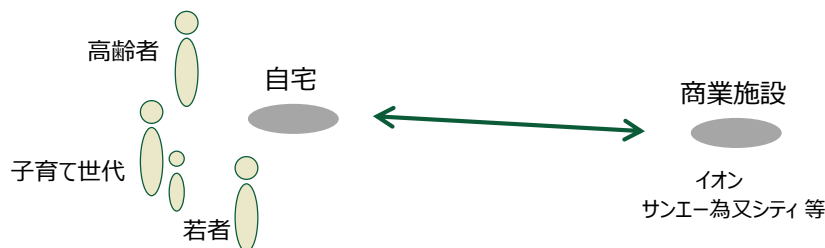


出典：NTTインフラネットに一部加筆

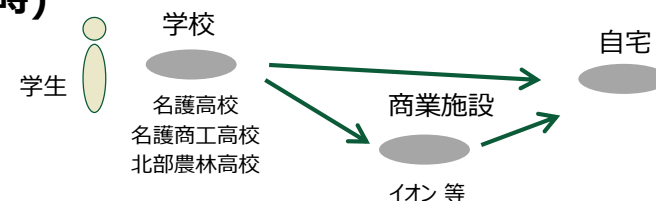
利用イメージ

- ✓ **主に伊差川、為又、宇茂佐等の住民の日常の移動手段**としての利用を想定、利用者アンケート等で利用実態、満足度などの効果を確認

買物



通学(下校時)



4. 実証実験における調査実施方法

4.1.3 効果検証項目

- ✓ 想定した利用に対する利用状況、路線バスへの影響及び運行内容のニーズへの適合性等を確認するため、利用実績の取得、アンケート及びヒアリング調査を実施する。

把握事項	調査項目	調査方法	
		実績取得	アンケート・ヒアリング
想定した利用に対する利用状況の把握 ・地域住民の日常の移動手段としての利用 ・観光としての利用	✓ 各路線利用者数 ✓ 各バス停乗降状況 ✓ 利用OD ✓ 施設への来訪者の利用 ✓ 利用目的 ✓ 利用者属性	利用実績 OD調査	利用者アンケート 施設ヒアリング 運転手ヒアリング
路線バスへの影響	✓ コミュニティバス実施時の路線バス利用状況変化 ✓ 路線バスとコミュニティバスの乗り継ぎ状況	路線バス利用実績	交通事業者ヒアリング 利用者アンケート 沿線住民アンケート
運行内容のニーズへの適合	✓ コミュニティバスの満足度・不満点 運行ルート、運行ダイヤ、バス停表示、バス待ち環境、バス車両、情報提供 ✓ 非利用者が利用しない理由	—	利用者アンケート 運転手ヒアリング 沿線住民アンケート
想定利用者数	✓ 利用意向 ✓ 移動に関して困っていること ✓ 本格運行での想定利用者数	利用実績	沿線住民アンケート

4. 実証実験における調査実施方法

4.1.4 調査方法と実施時期

- ✓ コミュニティバス運行に関連する各調査の内容と実施時期は以下のとおりである（計画策定におけるヒアリング等とセットで実施するなど、効率的な方法を検討）。

調査方法	内 容	実施時期 (案)
利用実績	✓ コミュニティバスにセンサーを設置し、計測	全日
OD調査	✓ コミュニティバスで平日・休日各1日、調査員が乗り込み実施	11月 平日・休日各 1日
利用者アンケート	✓ OD調査時に利用者アンケートを配布し、調査 ✓ アンケート票ははがきとし、記入して投函またはその場で回収	11月
沿線住民アンケート	✓ コミュニティバス路線沿線住民にアンケートを配布（配布方法はバス利用圏におけるポスティング等を想定） ✓ 回収率向上を図るため、ウェブによる回答ページを設け、紙とウェブの2通りの回答方法を設定 （統計的な精度を確保するため、系統別に300票の回収を想定（沿線住民1,500名程度の配布を想定）	11月
運転手ヒアリング	✓ コミュニティバスの運転手にヒアリング	11月

4. 実証実験における調査実施方法

4.2 久志地域公共交通実証実験事業

4.2.1 実証実験の目的

✓ 実証実験の目的は以下のとおり。

1. 久志地域における高齢者等住民の利便性を向上させるための施策として、二見以北コミュニティバス※、デマンド交通の運行ニーズなどを把握し、**本格導入時の検討材料**とする。

※コミュニティバスは路線バスが運行していない**空白時間**（有津～名護バスターミナル間を運行する78番名護東部線は朝1便、夕方から夜にかけて2便の一日往復3便）に運行することで、地域住民の利用状況を把握する。

2. 本年度策定予定の**名護市地域公共交通計画における方針、施策検討**に反映。

✓ 目的に資するため、以下の項目を把握。

○想定した利用に対する利用状況の把握

- ・地域住民の日常的、非日常の利用

○路線バス・タクシーへの影響

- ・コミュニティバス及びデマンド交通運行時の路線バス及びタクシー利用者数の変化、乗り継ぎ利用の有無等

○運行内容のニーズへの適合

- ・ルート、ダイヤ、バス車両、タクシー車両 等

○想定利用者数

- ・アンケート等をもとにした本格運行時の利用者数の想定

4. 実証実験における調査実施方法

4.2.2 検証のための利用者像の想定

- ✓ 久志地区におけるコミュニティバス及びデマンド交通運行について、それぞれ利用者や利用目的を想定。
検証において**利用者アンケート、OD調査等の実施により実際に想定した利用、効果があったのかを確認**する。

二見以北コミュニティバスの利用イメージ

二見以北沿線住民（特に、高齢者）

✓ 二見以北エリア内の移動での日常利用①

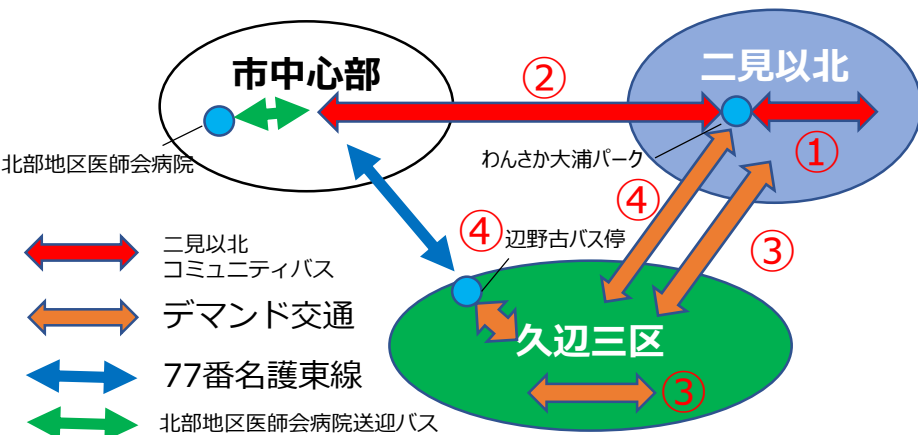
わんさか大浦パーク、久志支所、名護市久志診療所、久志郵便局等

✓ 市中心部への移動（買物、通院）②

買物：イオン、その他（市街地コミュニティバス等への乗り継ぎ）

通院：県立北部病院、
北部地区医師会病院（病院送迎バスへの乗り継ぎ）

（利用イメージ）



デマンド交通の利用イメージ

久志三区の区民・その他（デマンド交通運行エリア内を移動する者）（特に、高齢者）

✓ 久志三区内＋二見以北施設間の日常移動③

久志三区：各区公民館、共同売店、飲食店

二見以北：わんさか大浦パーク、久志支所、名護市久志診療所

✓ 二見以北コミュニティバス、77番名護東線との乗り継ぎによる市街地への移動（買物、通院）④

わんさか大浦パーク、辺野古バス停経由

二見以北エリアの人口

行政区	人口	世帯数
二見	81	45
大浦	101	51
大川	60	37
瀬嵩	262	122
汀間	235	128
三原	245	131
安部	120	73
嘉陽	86	50
底二屋	49	32
天仁屋	112	68
合計	1,351	737

久志三区の人口

行政区	人口	世帯数
久志	535	274
豊原	451	225
辺野古	1,712	1,033
合計	2,698	1,532

※令和3年3月31日現在

4. 実証実験における調査実施方法

4.2.3 効果検証項目

- ✓ 想定した利用に対する利用状況、路線バス及びタクシーへの影響並びに運行内容のニーズへの適合性等を確認するため、利用実績の取得、アンケート及びヒアリング調査を実施する。

把握事項	調査項目	調査方法	
		実績取得	アンケート・ヒアリング
想定した利用に対する 利用状況の把握 ・地域住民の日常の移動手段 としての利用 ・観光としての利用	✓ 利用者数 ✓ 各バス停及び乗降場での乗降状況 ✓ 利用OD ✓ 施設への来訪者の利用 ✓ 利用目的 ✓ 利用者属性	利用実績 OD調査	利用者アンケート 運転手ヒアリング
路線バス、タクシーへの 影響	✓ 実証実験時の路線バス、タクシー利用 状況変化 ✓ 路線バスとコミュニティバス及びデマンド 交通の乗り継ぎ状況	路線バス、タク シー利用実績	交通事業者ヒアリング 利用者アンケート 沿線住民アンケート
運行内容のニーズへの 適合	✓ コミュニティバス・デマンド交通サービスの 満足度・不満点 ✓ 非利用者が利用しない理由	—	利用者アンケート 運転手ヒアリング 沿線住民アンケート
想定利用者数	✓ 利用意向 ✓ 移動に関して困っていること ✓ 本格運行での想定利用者数	利用実績	沿線住民アンケート

4. 実証実験における調査実施方法

4.2.4 調査方法と実施時期

- ✓ 久志地域におけるコミュニティバス及びデマンド交通運行に関連する各調査の内容と実施時期は以下のとおりである。

調査方法	内 容	実施時期 (案)
利用実績	✓ (二見以北コミュニティバス) 乗降センサー設置等により計測 ✓ (デマンド交通) 利用実績をもとに把握	実験期間 全日
OD調査	✓ (二見以北コミュニティバス) 平日・休日各1日、調査員が乗り込み実施 ✓ (デマンド交通) 利用実績から出発地、到着地を把握 (調査期間全日で把握)	12月
利用者アンケート	✓ (二見以北コミュニティバス) OD調査時に利用者アンケートを配布し、乗車時に配布、投函またはその場で回収 ✓ (デマンド交通) 利用者アンケート等を乗車時に配布し、投函またはその場で回収 (調査期間は利用実態を踏まえ要調整)	12月
沿線住民アンケート	✓ (二見以北コミュニティバス) 沿線住民にアンケートを配布 (配布方法はバス利用圏におけるポスティング、各区への協力依頼等を想定) 回収率向上を図るため、ウェブによる回答ページを設け、紙とウェブの2通りの回答方法を設定 ✓ (デマンド交通) 各区への協力依頼等により調査を実施	12月
運転手ヒアリング	✓ コミュニティバス及びデマンド交通の運転手にヒアリング	12月

4. 実証実験における調査実施方法

4.3 アンケート内容

4.3.1 コミュニティバス（名護市街地及び周辺エリア・二見以北）

- ✓ 利用者アンケートの項目と活用方法は以下のとおり。沿線住民アンケートは以下設問に加え、非利用者の立場からのニーズ等を把握する設問を追加して実施。

<設問項目と活用方法>

設問分類	設問項目	活用方法
1.個人属性	①性別、②年齢、③住所④職業、⑤運転免許の有無、⑥自家用車の有無、⑦自宅から最寄りバス停までの時間・距離	✓ 年齢、地域の違いによる移動実態の違いを把握
2.コミュニティバスについて	2-1 コミュニティバスを知った経緯	✓ 広報手段の有効性を把握
	2-2 コミュニティバスの利用実態（今回） ①利用経路、②他バスとの乗り継ぎ利用、③利用目的、④往復利用の有無	✓ コミュニティバス利用者の利用実態を把握
	2-3 コミュニティバスの利用頻度	✓ コミュニティバス利用者の利用実態を把握
	2-4 コミュニティバスの満足度 ①運行時間、②所要時間、③運行ルート、④乗り継ぎ、⑤車両・バス停環境	✓ コミュニティバスの満足度を把握し、本格運行時の改善点を把握 ✓ 運行ルートは具体的な回答を記入してもらい、移動ニーズを把握
	2-5 既存交通への影響（コミュニティバスがない場合の移動手段）	✓ コミュニティバスによる既存交通（バス、タクシー）への影響度を把握
	2-6 有償時の運賃支払い意向	✓ 本格運行時の採算性の検討等に活用するため、支払い意思を把握
	2-7 公共交通への要望	✓ 公共交通に対する自由意見を把握し、ニーズ把握の参考意見として活用

4. 実証実験における調査実施方法

4.3 アンケート内容

4.3.2 久辺三区デマンド交通

- ✓ 利用者アンケートの項目と活用方法は以下のとおり。沿線住民アンケートは以下設問に加え、非利用者の立場からのニーズ等を把握する設問を追加して実施。

<設問項目と活用方法>

設問分類	設問項目	活用方法
1.個人属性	①性別、②年齢、③住所④職業、⑤運転免許の有無、⑥自家用車の有無	✓ 年齢、地域の違いによる移動実態の違いを把握
2.デマンド交通について	2-1 デマンド交通を知った経緯	✓ 広報手段の有効性を把握
	2-1 デマンド交通の満足度・不満点 ①運行時間、②予約、③所要時間、④運行エリア、⑤乗合行為	✓ デマンド交通の満足度を把握し、本格運行時の改善点を把握 ✓ 運行エリアは具体的な回答を記入してもらい、移動ニーズを把握
	2-2 デマンド交通の利用頻度	✓ デマンド交通利用者の利用実態を把握
	2-3 デマンド交通の利用実態（今回） ①利用経路、②バスとの乗り継ぎ利用、③往復利用の有無	✓ デマンド交通利用者の利用実態を把握
	2-4 既存交通への影響（デマンド交通がない場合の移動手段）	✓ デマンド交通による既存交通（バス、タクシー）への影響度を把握
	2-5 有償時の運賃支払い意向	✓ 本格運行時の採算性の検討等に活用するため、支払い意思を把握
	2-6 公共交通への要望	✓ 公共交通に対する自由意見を把握し、ニーズ把握の参考意見として活用